

理解する

道外の人から見た北海道のイメージには「ヒグマをペットにしている」「街中をいつでもウロウロしている」「など笑い話のようなものもあるそうです。ところが、昨年、札幌市では、市街地にヒグマが出没し、笑い話では済まされなくなりました。

皆さんは野生のヒグマのこと、知っていますか？

平成20年8月標津町で撮影

人口192万人の大都市札幌ですが、市内の山や森にはヒグマが暮らしています。

人口192万人の大都市札幌で

グマは、捕獲も含め、有害鳥獣として対応する場合もあります。

皆さんが市街地や公園、遊歩道などで、ヒグマを目撃し

ヒグマの生態

日本では、北海道にのみ生息する、国内で最も大きな陸上動物です。

例年、市内の山間部などで出没に関する情報が寄せられますが、昨年、中央区の市街地にヒグマが現れたことは記憶に新しい出来事です。

たり、足跡などの痕跡を発見した場合は、110番に通報もしくは最寄りの交番へ連絡してください。

市では、ヒグマが市街地などに出没した場合、市民の安全確保を第一に、現地調査や追い払い、市民の皆さんへの情報提供や注意喚起を実施すること、ヒグマとの共存を目指すとしています。しかし、農作物やごみを荒らしたり、人間を見ても逃げないなどのヒ

これまでも毎年数件、ヒグマの目撃・痕跡の通報がありました。が、昨年は、ここ数年で突出した件数となりました（グラフ1）。月別での状況を見ると、10月に非常に多くの情報寄せられました（グラフ2）。

どの辺りで出没したのか、痕跡があつた場所を地図で示しました（下図）。盤溪周辺の山を中心にヒグマが行動していることが考えられます。これからの時期、この周辺での登山や山菜採りなどに行く場合は、ヒグマに遭遇する可能性がありますが、十分気を付けてください。

ヒグマの生態

日本では、北海道にのみ生息する、国内で最も大きな陸上動物です。

成獣の体重と体長

雌 ^メ	雄 ^オ
100	150
↳	↳
200	400
kg	kg
約	約
150	200
cm	cm

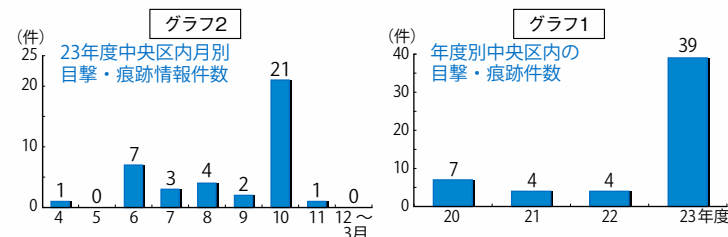
寿命は20年ほどで、

4歳以上に
なると繁殖
が可能な体
になり、知
恵も付き、
自ら人間に



岡山動物園「とわ」

近づくことはないと言われている。



▼地図：23・24年度の痕跡情報があった場所（●23年度、✕24年度：8月16日現在）



雌は、冬眠中に子どもを産み、子グマが2歳ぐらいになるまで一緒に行動しています。この時期の母グマは、子グマを守るため非常に敏感で攻撃的な面が強く、遭遇したときは注意が必要です。逆に子グマは、好奇心旺盛で人を恐れず、場合があります。

一概にはいえませんが、子グマは、母グマと一緒にいることが多く、一頭で目撃されているヒグマは、親から離れたばかりの幼いクマが多いのではないかと想像されます。

ヒグマは雑食性で、サゼンソウ、フキ、クルミ、ドンゲリなどの植物のほか、アリやザリガニ、場所によつてはサケ、最近では、狩猟や駆除によるエゾシカの死体などの動物も食べています。また、嗅覚に優れ、においが強いものを好むようです。さらに、学習能力が高く賢い動物です。

狩猟の技術が高くなく、道内の他の野生動物より俊敏性に欠けるため、生きている動物を積極的にかかることは少ないようです。